

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

羽曳野市立高鷲南小学校

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象 第6学年児童（76名）

3 調査の実施日 令和5年4月18日（火）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査：国語・算数

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（2）学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

5 調査結果の取扱い

- 調査結果の分析・考察を踏まえ、教育指導等の改善に向けて計画的に取り組めます。
- 家庭や地域とも成果と課題を共有し、改善につなげていくよう努めます。
- 調査結果は中学校区でも共有し、共通で取組める内容について検討・実践してまいります。
- 以下の点についてご理解ください。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

（「令和5年度全国学力・学習状況調査実施要領」より）

6 調査結果の考察

(1) 各教科調査結果・児童質問紙調査(教科に関する項目)から

国語について

成 果

- 「情報の扱い方に関する事項」について平均正答率が大阪府平均を上回っている。普段の授業から、資料を見ながら情報を読み取ることを取り入れている成果だと思われる。
- 「国語の授業で、言葉には、相手と好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか」という質問事項では、肯定的意見が全国・大阪府平均を上回っている。本校では、教育活動全体において、言葉を大切にしながら集団づくりをしている。その中でも国語科は、たくさんの言葉に触れる機会として意識している成果であると考ええる。

課 題

- ▲知識・技能に関する問題、特に漢字を書くことに課題がある。「いがい＝意外」の正答率は極端に低い。
- ▲「書くこと」や記述式の問題に課題が大きいことが近年続いている。特に、記述式問題は途中であきらめる傾向があり、無解答率が極めて高い。

算数について

成 果

- 問題形式では、「短答式」のもの、評価の観点の中では、「知識・技能」が全国・大阪府平均を上回っている。本校では、朝の学習の時間で算数タイムを全学年で取組んでいる成果であると考ええる。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかみる問題の正答率が高い。

課 題

- ▲問題形式では、「記述式」のものが、全国・大阪府平均を下回っている。評価の観点の中では、「思考・判断・表現」が、全国・大阪府平均を下回っている。「書くこと」に課題がある。
- ▲無解答率が全国・大阪府平均に比べて高い傾向にある。示された問題を粘り強く読み取ることに課題があり、途中で考えることをあきらめてしまう傾向がある。

(2) 児童質問紙調査結果から

成 果

- 毎日朝ごはんを食べている割合は、ほぼ9割以上である。全く食べていないと回答している児童が減少傾向にある。
- 「学校の授業時間以外に、普段1日どれくらいの時間、読書をしますか」という質問に、1時間以上読書している児童が全国・大阪府平均を上回っている。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問で発表していたと答えた児童が多い。

課 題

- ▲「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」は肯定的回答が低い。また、「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に30分以内と回答した児童が多い。
- ▲自分のよさに気づいたり、将来の夢を持ったりすることの項目の肯定的回答が低い傾向が続いている。
- ▲自分の意見と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童の割合が全国・大阪府平均に比べて低い。また、友だち関係に満足していると答えた児童も少ない。
- ▲家庭学習の時間や読書時間が短い傾向が続いている。



本校公式キャラクター
「たかにゃん」

これらの課題克服に向けて



1 自己肯定感・非認知能力を高めるために

- (1) 教育活動全般を通して、自己肯定感を高めるようにする。そのために、教職員は子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な言葉づかい、プラスの言葉かけに一層努める。
- (2) 会議や研修を通して子ども理解を一層すすめるとともに、相談ポストの設置やカウンセリング週間の定期的実施など、学校組織全体での取組みを継続する。
- (3) 課題を最後までやり切ることを徹底するよう指導する。粘り強く課題に向き合う課程の大切さを価値づける。

2 学習習慣・読書習慣を高めるために

- (1) 家庭学習の手引きを活用した指導を継続し、3年生以上では自主学習を推進する。土日曜日を含めて学年に応じた時間を学習する習慣が身に付くよう指導を継続し、保護者への啓発を継続する。
- (2) 朝の一斉読書を毎日実施する。定期的に読書月間や読書週間を学校全体で位置づける。家読(うちどく)週間では、家庭で読書する時間をつくり、家族で読書する、読んだ本の感想を交流するなど、家庭で読書するきっかけづくりを継続する。

3 書く力・ことばの力を高めるために

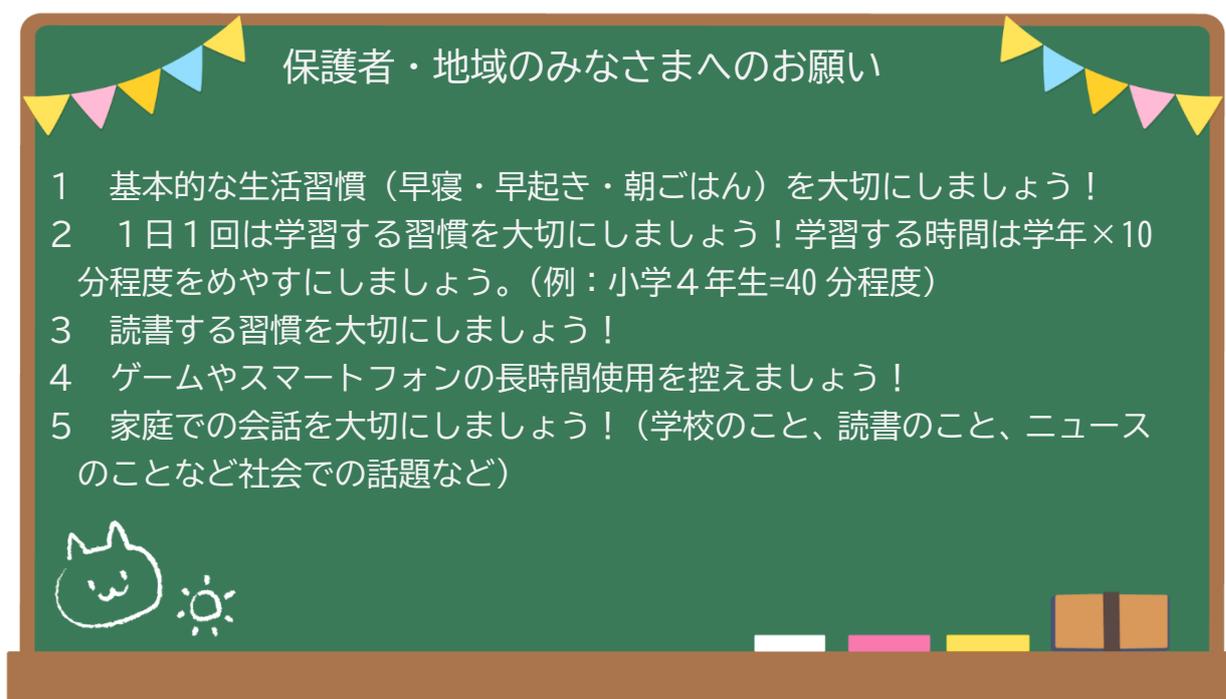
- (1) 全校で作文に取り組む。低学年の生活作文、行事作文から高学年の意見文、説明文だけでなく、特に3年生以上では総合的な学習の時間の学習成果物としての作品づくりを意識的に行う。その際、習った漢字を積極的に使うようことの価値を高めていく。
- (2) 「読むこと」と関連付けて、読み取ったことを短いことば・文で要約する機会を多く設ける。
- (3) 各教科の授業では、「めあて」「見通し」「考える」「深める」「まとめる」など、流れのある学習活動を意識する。特に、まとめでは、自分のことばで授業を振り返りまとめる活動を取り入れていく。

4 算数的思考力を高めるために

- (1) 基本的な公式を活用することや計算力を高めるために、朝の時間に行う「算数タイム」を一層充実させる。学習アプリ(ドリルパーク)を計画的・組織的に活用し、個別最適化した学びにつなげていく。
- (2) 文章問題では、問題文を根気よく読む習慣づけを行う。自ら読み取った題意を式や絵で表し、見通しを持つことを一層重視する。
- (3) 授業は「めあて」「見通し」「考える」「深める」「まとめ」など流れのある学習展開を意識する。その際、具体物を使ったり、デジタル教科書など ICT 環境を有効活用したりすることで、ユニバーサルな分かりやすい授業をめざす。

5 科学的な思考力・自然への興味関心を高めるために

- (1) 日常の学校生活の中で季節の移り変わりを感じたり、身近な草花や樹木などに関心が向いたりするようなきっかけづくりを意識する。
- (2) 教育活動に体験的な活動を可能な範囲で取り入れていく。また、観察や実験などを積極的に取り入れ、理科や自然に対する興味関心を広げていく。学級でも担任が自然現象や暦(二十四節気など)に意図的に触れるようにする。



(参考資料①) [羽曳野市の結果概要](#)



(参考資料②) [大阪府の結果概要](#)

